

feature interview

JUST BLAZE

USシーンのトッププロデューサーJUST BLAZEが、貴重なDJプレイを披露すべく待望の再来日を果たす。彼の近況を語ってもらった。

■最近の活動は？

まずサイゴンのアルバムを制作中だよ。あとジョー・パドゥンのアルバムもやってる。他にまだ詳しい内容は言えないけど、あるコンピレーションもやってて、2~3ヵ月後にはみんなも分かると思うけどね。とにかく忙しくしてるよ。DJの方は特別な時だけ、自分の中でイベント化させてたまにやってるよ。Qティップとマーク・ロンソンと一緒にテーブル50っていうクラブでも最近までまわしてたんだ。でもDJはあまり頻繁にやらないようにしてるんだよ。露出し過ぎると価値が下がるからね。レーベルの方もいい調子だよ。サイゴンのアルバムは半分くらい出来たし、そう、彼はHBOの“Entourage”っていうTVドラマにも出るんだ。すべてうまく行ってるよ。

■MEDというStones Throw所属のアンダーグラウンドラッパーと仕事をしていたのはビックリさせられました。メジャーやインディーといったカテゴリーは関係なく仕事しますか？

ピーナッツ・バター・ウルフとは最近仲がよくって、そこから来た話なんだ。以前から何かやろうって言ってたんだけど、こういう仕事をするには今がちょうどいいタイミングだなと思って。どうせやるんなら、ちゃんと人々に気付いてもらえる仕事にしたかったね。結局アルバムに使ったのは1曲だったけど、彼とは何曲かやったんだ。オレはカネのためだけに仕事をしたくないんだ。あのアーティストは売れるのが保障されてるからプロデュースしようとか、そういうんじゃないよ。このビジネスは賭けも必要なんだよ。他にもアンダーグラウンド・アーティストとは何人が仕事をしてるんで、そのうち耳にすると思うよ。これから起こる事を先に言いたくないタイプなんで、あまり今は話せないけどね。

■9th Wonderなどのプロデューサーが出て来ましたが、最近のUSシーンはどうですか？

クールだと思うけど、現在のUSのシーンはギャップがあり過ぎるね。プロデューサーにしても同じだよ。昔はAリスト・アーティスト/プロデューサーがいて、Bリストもいた。今は頂点が底かどっちかだからね。こうなった理由は誰も新しい事をやろうとしないからだと思うけどね。多くのプロデューサーがオレとカニエがジェイZの“Blueprint”でやってた事を未だに追いかけてるし、オレたちにはそんなのとっくに過去の事なのにさ。今あるものを小手先を変えてやってるだけのプロデューサーがいっぱいいるよ。一方にはオレやカニエやファレルやドレーやティンバランドがいて、そして今調子が上がってきてるプロデューサー、アルケミストやスクラム・ジョーンズがいて、あとはその他大勢って感じだろう？ 中間っていうのがないんだよな。凄く売れてるか、生活も大変なプロデューサーか、しか居ないんだ。それが今のシーンにおいての一番の問題だと思うね。だからオレも少しスローダウンしようと思ったんだ。ずっと同じ事は続けたくないしね。オレは常に新しいサウンドを世に出す事でも知られてるけど、多くの人が自分のスタイルを真似し始めたら、次の事をやらなきゃいけないサインだと思ってるよ。だってレコード会社だってバカじゃないから、オレと全く同じような音を全然安い値段で作れるプロデューサーが出てきたら、そっちに行くだろうしね。だからスタイルを変え続けるっていうのは大切な事なんだよ。それが今自分のやってること。新しいサウンドを開発中なんだ。

■最近何を聴いていますか？

オレは何でも聴くよ。カントリー以外はね。オレを知ってる人なら、オレの好きなのは80年代後半~90年代前半のヒップホップだって知ってるはずだよ。新しいのはあまり聴いてない。さっきも言ったけど、新しい事がないからね。もちろん今成功してる人たちは凄いと思うし、尊敬もしてるけど、自分が家で聴く音楽っていうのは、もっと違うものだね。例えば今はヒートウェーブとかロック・グループのイエスにいたリック・ウェイクマンとか、最近のヒップホップで言うなら、デンジャー・マスとドゥームのデンジャードゥームとか聴いてるね。ドゥームとは何曲か一緒にやったんだ。もちろんオールド・スクールは聴いてるし。

■日本の印象はどうですか？

前回行った時は本当に楽しかったよ。ヒップホップ・ファンも本当にシーンを大切にしてくれてるし。ある意味ではアーティスト自身よりも日本のファンは音楽そのものをアートのひとつとして大切にしていると思うね。アメリカではミックス・テープは誰がエクスクルーシブや新しいものを持ってるかで競ってるけど、日本はもっとプロダクション自体に重点を置いたり、アートとしてとらえてるよね。だからオレとかビートマイナーズとかグリーン・ランタンみたいなオタクなプロデューサーにとっては日本は有り難いお気に入りの場所なんだ。アメリカだと“ラッパーありき”、みたいな部分があるけど、日本はプロダクションそのものをアートとして理解してくれてるよね。前回は1週間の予定が3週間も居ちゃったしね。人々もとてもクールだよ。

■2回目の来日となりますが、今回はどういったプレイでフロアを楽しませてくれますか？

今回も前回みたいに自分のレコードもかけるし、オールド・スクールもかけるし、でもあまり始めからこれをかけようとか計画しないようにしてるんだ。ターンテーブルの前に立ってみて、かけたものをかけるのがオレのスタイル。

■今回もCD-Jを使用しますか？最近Scratch LiveやFinal Scratch等のパソコンソフトを使用するDJが増えてきましたが、

オレはテクノロジー好きだからね。前はCDJだったけど、今回はScratch Liveでやるかも知れないな。さっきも言ったけど、DJする時はプランを立てるのは好きじゃないから、オレのMP3ライブラリーだったら16,000曲くらい入ってるから、その中から選択できるっていうのはメリットだよ。それをクレートで運ぼうと思ったら何百個になっちゃうだろう。今はハードドライブとコンピューターだけ持っていけばいいんだ。だからScratch LiveとCDJも両方使うかもしれないな。

■前回は約3週間滞在してましたが、今回は秋葉原やスニーカーショッピングを楽しむ予定ですか？

そうだな、まずレコード掘りを何日かして、秋葉原にも何度か行きたいね。コンピューター関連のものやガジェットを見たいしね。そして原宿にスニーカー・ショッピングに行く。前は大体メジャーな場所は廻ったんで、今回は違った所に行ってみよう。もっと人が少ない所とかね。その方が掘り出し物が見つかるかもしれないし。でもただ日本でハング・アウトするのが楽しいんだ。

■今後の予定は？

まずサイゴンのアルバムを完成させる事だね。何人かのアーティストとも次の仕事の話をしてる



んだけど、サイゴンが最優先。とにかく今は、一日一日を大切に仕事してて感じる。次の事は今の仕事が終わってから考えるようにしてるよ。

■あなたのプレイを楽しみにしている日本のファンへメッセージを。

前回も良かった人だったら、今回はもっと良くなったって思えるはずだぜ。オレも楽しみにしてるから、キミたちも楽しみにしてくれよな。☺

"Just Blaze All time favorite"

- Songs -
※「自分の子供の中で誰が一番好きか？」というような質問なので、この質問には答えられないの事。代わりに今頭に浮かぶ範囲でビートの好きな曲を3つ。
T.R.O.Y. (Pete Rock & C.L. Smooth)
Looking at the Front Door (Main Source)
Protect Ya Neck (Wu-Tang Clan)
- Producers -
1 : Pete Rock
2 : RZA
3 : Q-Tip
- MCs -
1 : JAY-Z
2 : Big Daddy Kane
3 : Nas
- Produced Songs -
1 : U Don't Know
2 : Public Service Announcement
3 : I Really Mean it

"Just Blaze" Bio Graphy

Jay-Zのクラシックアルバム“Blueprint”に収録されている“Girls, Girls, Girls”、“Song Cry”また、Cam'ronの“Oh, Boy”でその独創的なサンプリング手法や独特なドラムパターンで、次世代のトッププロデューサーに上り詰めたJust Blaze。特に彼自身のターニングポイントとなったCam'ronの“Oh, Boy”の中毒性の強いドラムループは記憶に新しい。

そんな彼を頼るのはJay-ZやCam'ronだけではない。Freeway、Beanie Sigel、Diplomats、Young Gunz等のRoc-A-Fellaファミリーを始め、Eric SermonやBusta Rhymes、Fabolous、Joe Budden等、今やUSトップアーティストで彼と組んで仕事をしていない者はいないとさえ言われている。

また、DJ PremierやPete Rockがアイドルという彼は、アンダーグラウンド手法であったサンプリングをオーバグラウンドレベルに持ち上げた功労者である。Kanye Westと比較されがちだが、その大胆なサンプリング手法と、計算され尽くされたリズムパーカッションの鳴らし方を聴けば、彼がプロデューサーとしていかに優れているかは明かである。

そんな彼がサンプリングをターンテーブルに変え、(DJ) Just Blazeとして日本再上陸。昨年は自身のプロデュース楽曲で2時間フロアを沸かし続けたが、今年もJay-Zの“Dear Summer”、Fat Joeの“Safe To Say (The Incredible)”、Usherの“Throwback”、そしてFabolousの“Breathe”等で大ヒット曲を連発しているJust Blaze。再びどんなマジックを見せてくれるのか？